

第9回 地域科学技術イノベーション推進委員会における論点整理

地域科学技術イノベーションを担う主体がどのように関係し合う中で、より効果的にイノベーションが生まれるかについて、今後、各主体の期待される役割を考えるに当たって、検討の深耕を図っていくことが求められる。（「中間とりまとめ」p.3）



地域科学技術イノベーションを生み出す源泉（エンジン）を、「地域資源（モノ）」、「資金（カネ）」、「人（ヒト）」に分解し、「エコシステム」をこれらが持続的に回り続けるための仕組みとして捉え、それぞれ4つの要素（「地域資源（モノ）」、「資金（カネ）」、「人（ヒト）」、「エコシステム（仕組み）」について、『大学』という主体の切り口から、論点を以下のとおり整理

● 地域資源（“モノ”） <「中間とりまとめ」P.9 関連>

- 地方創生に寄与する地域科学技術イノベーションには、地域の大学等の持つ特色ある技術を生かしたシーズプッシュ型、地域の課題をベースとしたニーズプル型とがあるが、これらにおける大学の役割とは、また、それぞれにおいてその役割に違いはあるか？
- 地域科学技術イノベーションが生じるプロセスとしては、ゼロから1を創る大学発ベンチャー型、地域にあるリソースを最大限活用して磨き上げて1を100にする第2創業型、そしてさらなる先の100から∞及びオンリーワンを目指すアプローチが混在するが、これらにおける大学の役割とは、またそれぞれにおいてその役割に違いはあるか？

- **資金（“カネ”）** <「中間とりまとめ」P.8, P11 関連>

- 地域の大学における特色ある技術シーズの創出活動を、いわゆるコストセンターから新たな投資を呼び込むプロフィットセンターへと生まれ変わらせ、大学に経済的価値の獲得に向けた強い機能を持たせるには？（コストの可視化、財源の多様化、組織対組織の産学連携など）

- **人材（“ヒト”）** <「中間とりまとめ」P11, 12, 13, 14 関連>

- 地域の科学技術イノベーション活動を担う人材輩出・能力向上（地場産業を担う地域経営者、活動全体を俯瞰しプロデューサー的役割を担うリーダー、「コトづくり」が出来る人材など）に関して、大学に期待されることは？（イノベーションデザイナー人材の育成、リカレント教育、アントレプレナー教育など）
- 研究成果の社会実装に向けた産学連携や地域貢献に従事する人材を地域で確保していくために、大学に期待される役割は？（若手人材の流動性向上、研究者評価の視点など）

- **エコシステムの形成（“仕組み”）** <「中間とりまとめ」P16 関連>

- 「地域資源（“モノ”）」、「人材（“ヒト”）」、「資金（“カネ”）」というエンジンを動かして、エコシステム（“仕組み”）を形成するため、大学は、地域における中立的な立場である大学の特徴を生かし、他主体（自治体、企業（ベンチャー、中小企業等）、金融機関など）間との連携をどのように構築・深化させることが期待されるか？（広域連携、地域連携プラットフォームなど）